

●技術情報

Q&A

[3] 農薬効果

Q3-8 スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の防除に効果があると聞きましたが、使用方法をお教え下さい。

A3-8 ジャンボタニシは昭和 56 年頃に食用にするため台湾から輸入し、水田で養殖が始められました。当時は新しい食品としてブームを呼びましたが、現在は養殖が放棄され水田や水路で繁殖して水稻(田植え直後の稲)、レンコン、ミズイモ、イグサなどに被害を与えています。特徴はその名のとおり在来のタニシよりも体型がかなり大きく殻高は5~6cm に達しています。食食物は上記の作物のほか野菜くずや死魚の肉片も食べる雑食性で、その上繁殖が早いので被害の拡大が心配されています。産卵は年間 20~30 回、1回当たりの産卵数は 200~300 粒におよびます。

石灰窒素は他の薬剤に比べ駆除効果が高く、農薬登録されています。使用手順は以下のとおりです。

石灰窒素の使い方

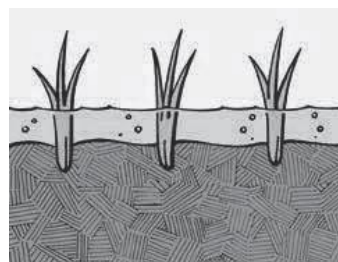
[1] 田植え前防除のとき(春施用)



①荒代かき・湛水(3~4日間)
荒代かき後3~4cm湛水し、3~4日水深を維持してください。
漏水田では、代かきを十分に行い、漏水を防止してください。



②石灰窒素の施用
(石灰窒素20~30kg/10a)
石灰窒素を全面にむらなく施用した後、水深を維持しながら3~4日放置してください。



③代かき・田植え*
代かき後2~3日以降、田植えます。
*石灰窒素施用後、田植えまで5日以上おいてください。

図 3-7 スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の防除イメージ図

**石灰窒素20~30kg/10a施用は窒素4~6kgに相当します。
基肥窒素量はこの量に応じて減肥してください。
リン酸、カリは施肥基準に合わせて別途施用してください。**

なお、田面水を系外に流出させないために少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しは行わないで下さい。

[2] 稲刈り後の防除のとき（秋施用）

- ①稲刈後、水温15℃以上の時期に3～4cm 湛水し、1～4日放置してください。
 （耕起の必要はありませんが、漏水防止のために必要であれば軽く代かきします）
- ②石灰窒素を20～30kg/10a むらなく散布し、3～4日放置してください。
- ③自然減水を待ちます。

方法は田植え前使用と基本的に同じです。耕起する必要はありませんが、稲刈り後の水田に水を張れるところでなければなりません。石灰窒素を含んだ水が流れださないように漏水の防止には気を付けて下さい。稲刈り後に使用した石灰窒素は稲わらの腐熟促進、ヒエの休眠覚醒にも役立ちます。

なお、石灰窒素には魚毒性もあるので散布した水田から流亡、溢水しないように注意して下さい。

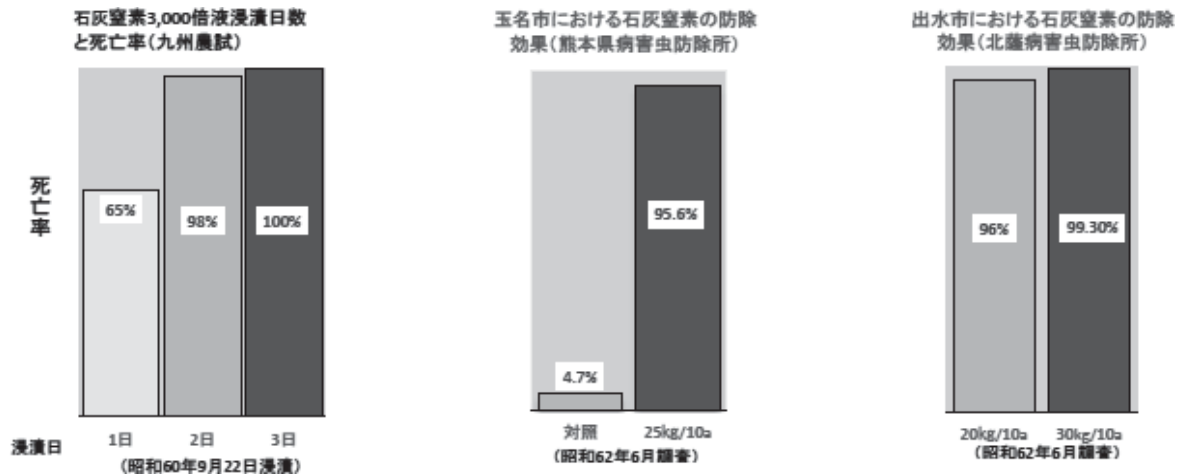


図 3 - 8 石灰窒素のスクミリングガイに対する防除効果

表 3-6 秋季に圃場を湛水して石灰窒素を処理した場合のスクミリングガイに対する効果

	処理時の水深 (cm)	供試貝数	貝の死亡率 (%)		
			処理1日後	処理3日後	処理8日後
圃場A	6.8	103.0	46.7	96.0	100.0
圃場B	10.7	106.0	11.2	77.6	100.0
圃場C(無処理)	3.7	90.0	0.0	1.0	—

川島病害虫防除所(平成6年調査)

- ・石灰窒素の施用量 30 kg/10a
- ・散布時の水温 31～32℃